

創造する森 挑戦する炎

熊本大学の成長戦略

～ 地域に根ざし、世界へ羽ばたく熊本大学へ ～

熊本大学長 原田 信志



27. 10. 3 (九州連合同窓会)

略歴

原田 信志（はらだ しんじ）

- 昭和50年3月 熊本大学医学部卒業
- 昭和50年7月 熊本大学医学部附属病院医員
- 昭和56年4月 マサチューセッツ大学医学部病理学教室医学研究員
- 昭和56年6月 ネブラスカ大学医学部病理学教室医学研究員
- 昭和59年3月 ネブラスカ大学医学部病理学教室助手
- 昭和59年7月 山口大学助手（医学部）
- 昭和61年6月 京都大学助教授（ウイルス研究所附属ウイルス診断研究施設）
- 昭和63年4月 京都大学ウイルス研究所附属ウイルス診断研究施設長
- 平成元年3月 熊本大学教授（医学部）
- 平成 6年6月 熊本大学アイソトープ総合センター長（平成8年3月31日まで）
- 平成 9年4月 熊本大学エイズ学研究センター長（平成15年3月31日まで）
- 平成18年4月 熊本大学大学院医学薬学研究部長（平成20年3月31日まで）
- 平成20年4月 熊本大学大学院医学薬学研究部長（平成22年3月31日まで）
- 熊本大学医学教育部長、医学部長（併任）
- 平成22年1月 熊本大学大学院生命科学研究部長（平成23年3月31日まで）
- 熊本大学医学教育部長、医学部長（併任）
- 平成23年4月 国立大学法人熊本大学理事・副学長
- 平成27年4月 第13代熊本大学長（平成33年3月31日まで（6年））

熊本大学の沿革

- **1756年** 再春館⇒県立医学専門学校⇒官立熊本医科大学
- **1756年** 蕃滋園⇒私立熊本薬学校⇒官立熊本薬学専門学校
- **1887年** 官立第五高等中学校⇒官立第五高等学校
- **1906年** 官立熊本高等工業学校⇒官立熊本工業専門学校
- **1878年** 県立熊本師範学校⇒官立熊本師範学校
- **1949年** 上記を統合し新制熊本大学となる
【第五高等学校(法文・理)、熊本医科大学、薬学専門学校、工業専門学校、
師範学校(教育)】
- **2004年** 国立大学法人熊本大学
(教員約**1000**名、学生(院生を含む)約**10000**名、予算約**500**億/年)
これまでの卒業生**12**万人以上



五 在堂中ストーブを囲んで



226 昭和16年ごろの教授陣 前列中央は添野哲校長。

Kumamoto University

著名教授陣



嘉納 治五郎
講道館柔術を創始。
第三代第五高等中学
校長。

在任：1891/8~1893/1



ラフカディオ・ハーン
小泉八雲として知られる
英国人。英語とラテン語
の教師。

在任：1891-1894



夏目 漱石
明治29年五高教授。「草
枕」等を執筆。

在任：1896-1900



1887年（明治20年）設置
本科／予科

多くの偉人が集った、伝統の赤煉瓦。

市民の熱意と協力でできた
著名な卒業生

熊本から
多くの人材を輩出

大正9年（1920）まで9月入学



剛毅木訥／質実剛
健

寺田 寅彦
物理学者・随筆家。五高
で漱石に師事。東大教授。
独特の写生文や科学随筆
で知られる。



佐藤 栄作
政治家・首相。昭和47年
沖縄返還を実現。
ノーベル平和賞を受賞。

いかめしき門を這入れば蕎麦の花

栗みのる畠を借して敷地なり

松を出てまばゆくぞある露の原 (運動場)

韋編(いへん)断えて夜寒の倉に束ねたる(図書館)

秋はふみわれに天下の志

かしこまる膝のあたりやそぞろ寒 (倫理講話)

先生の疎髯(そぜん)を吹くや秋の風 (教室)

本名は頓とわからず草の花 (植物園)

南窓に写真を焼くや赤蜻蛉 (物理室)

安安と海鼠の如き子を生めり (筆誕生)

菜の花の隣もありて竹の垣 (北千反畑に転居)

漱石の俳句(五高)

黒髪北地区の教育研究組織の整備

(人文社会系の特徴化を目指す)

- 1) 五高記念館の耐震化整備
- 2) 永青文庫研究センターの学内共同研究施設化
- 3) 熊本大学文書館の設置

国立大学改革プランの位置付け

国立大学法人スタート

《国立大学法人化の意義》

- ・自律的・自主的な環境の下での国立大学活性化
- ・優れた教育や特色ある研究に向けてより積極的な取組を推進
- ・より個性豊かな魅力ある国立大学を実現

※大学共同利用機関法人も同時にスタート

第1期中期目標期間 (平成16～21年度)

新たな法人制度の「始動期」

第2期中期目標期間 (平成22～27年度)

法人化の長所を生かした改革を本格化

今後の国立大学の機能強化に向けての考え方
(平成25年6月策定、平成26年7月改訂)

国立大学を取り巻く環境の変化

- ・グローバル化
- ・少子高齢化の進展
- ・膨大な財政赤字
- ・新興国の台頭などによる競争激化など

改革加速期間

グローバル化
イノベーション機能強化
人事・給与システムの弾力化

ミッションの再定義

国立大学改革プラン

自主的・自律的な改善・発展を促す仕組みの構築

第3期中期目標期間 (平成28年度～)

持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学へ

平成16年度
(2004年4月)

平成22年度
(2010年4月)

平成25年度
(2013年4月)

平成28年度
(2016年4月)

- 機能強化(研究力強化と教育力強化)を図ることにより、本学並びに我が国の国際的プレゼンスを向上させ、ひいては国立大学としての使命を果たします。
- 「研究大学強化促進事業(RU22)」「地(知)の拠点整備事業(COC)」「スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)」の採択に伴い、研究拠点大学、地域貢献大学、国際的に開かれた大学を目指します。
- 研究面においては、既に国際競争力を有する生命系並びに自然系の研究所・センター等を核に、また人文系においては新たな研究拠点の育成を図ることにより国際共同研究の更なる強化と部局の枠を超えた融合的研究の推進を行います。また三分野の研究機能をより強固にするために『研究機構』を設置し、研究の先鋭化と大学院教育の充実を行います。
- 教育面においては、COCとSGUの推進を図るため教養教育だけでなく、各部局に地域問題を考える、またグローバル人材育成のためのカリキュラムを構築し、地域に貢献する人材と国際的に活躍できる人材の育成を行います。
- ガバナンスについては学校教育法等の改正も踏まえつつ全学で取り組むと同時に、とりわけ資源(ヒト・物・金)の再配分に関しては、学長主導の大学戦略会議を組織し、改革を加速化させます。

【機能強化の基本構想】

特徴的研究力の 戦略的強化

「大学院先導機構」を中心に、先端・先導研究を推進。
当面、世界をリードする生命系と自然系を中心に、「**学内研究特区**」として重点整備。(25'「RU22」採択)

グローバル教育と地 域貢献教育の 重点強化

国際社会が求める新たな価値を創造するグローバル人材の育成と地域の問題を理解し地域に貢献する人材の養成を行う。
新たな教育手法を構築し、優秀な外国人教員等を加え、全学総動員体制による教育の質的転換を図る。

「研究、教育戦略」をShow Caseとし、ガバナンス改革を加速化



これらを実現・加速するための **組織改革**
(ヒト・モノ・カネ・スペース等、資源の再編)

「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学 ～創造する森 挑戦する炎～

[世界レベルの研究拠点の充実と先端研究分野の開拓による世界への挑戦]

国際先端医学研究機構

国際先端科学技術研究機構などの設置で研究推進

[旧制五高以来の剛毅木訥の気風を受け継ぎ、我が国の地域社会や国際社会の中でグローバルな視野で思考し、果敢に行動できる、知力と胆力を有する人物をつくる]

グローバル教育カレッジが牽引する熊大発高大接続モデルの構築

(入試改革、教育の質的転換を一体的に推進)

[熊大の“特色”を活かした「くまもと」の4つの豊かさ(経済的豊かさ、環境的豊かさ、文化的豊かさ、知的豊かさ)への貢献]

「くまもと地方産業創生センター」設置

減災国際協働教育研究拠点

熊本大学永青文庫研究センター

教授システム学研究センター

学長が先導する熊本大学の将来構想

【組織改革を軸とした国際通用性の高い大学へ機能強化】

1 特徴的研究力の戦略的強化

- 本学に優位性のある生命系及び自然科学系の分野に国内外の優れた人材が結集する先端的な「研究機構」を設置
- 特定分野で世界を牽引する研究を継続的に展開
- 新たな研究分野を創出

2 全学体制での教育研究の実施

- 迅速で弾力的な人材の獲得・配置を可能とし、先端的な研究領域を充実・拡大
- 研究成果に基づく新たな学問の教授や社会ニーズに迅速に対応する教育プログラムの構築を実現

3 グローバル教育カレッジの創設

- 国際感覚を有し、新たな価値を創造できる人材育成を先導するモデルケースの構築
→ 成果を全学に展開

